

## 認知症ケア・ネットワーク事業報告(平成22年10月～平成23年2月)

### 【参集範囲】

- 地域で役員を担っている町民の方々（参加の同意を得られた方）
  - ・ 京極町健康推進員協議会
  - ・ 福祉委員
  - ・ ヘルパーSUNの会
  - ・ 医療機関、介護福祉に関係する職員

### 【認知症高齢者について課題として感じていること】

- 家族の認知症に対する理解不足  
家族は頑張っているけれど、叱咤激励し、本人の症状が悪化する、など
- 家族内での考え方の違い  
同居家族がサービスを利用したくても、他の親戚が認めず困っている。高齢者世帯夫婦の方が介入しやすい、など
- 家族が外に出したくない  
「おばあちゃんが道路を横断していたけど危ないよ。」などの声かけを家族にすると、家族が外へ出さなくなる。他の人に迷惑をかけるからディサービスなどには出さない、など

### 【国保病院での対応】

- 養護老人ホーム入所者等からの入院が多い
- 徘徊などの症状が出ている場合、入院を断らざるを得ない状況
- 外来窓口で対応困難な事例が多くなってきた
- 認知症かな、と思っても誰にも相談していないかった

### 【事業の効果】

- 参加した町民の意識が高まった
- 地域に必要な資源は、福祉サービスと同時に地域の支援体制という意識が得られた
- 医療従事者（事務職を含む）が認知症に対しての意識が高まった
- 医療機関が実施主体になったことで、病院職員の参加が多く、町民からみた病院に対する見方が変わってきた

### 【明確になった課題】

- 認知症に対する事業をおこなっていても、それが地域住民への理解を得られるまでの展開はできていなかった
- 福祉サービスに頼っていた
- 定期的な学習会の開催
- 認知症に対する課題整理、目標の設定
- 課題別の具体策の検討
- 症例検討の継続（場合によっては、医療福祉関係従事者、町民とは別に行うなど）